

土木工業協会 } 編
電力建設業協会 }

日本土木建設業史

沼田 政 矩*

今年の4月15日に、標記の日本土木建設業史が、技報堂から発行された。

わが国の土木の歴史については、すでに土木学会から明治以前の土木史と、大正元年から昭和15年に至る間の日本土木史との2冊が発行されている。これらの本は土木技術史というべきものであって、土木の各分野にわたり、その計画・設計・施行などが、学術的に説かれて

しかるに、このたび出版されたこの日本土木建設業史は、土木工業協会と電力建設業協会との共同編集になるもので、土木請負業史ともいうべきもので、土木学会発行の日本土木史とは、かなり趣を異にしている。

いま、その内容をみると、全巻を、本編・外編・付編に分ち、本編には、歴史の本流を記述し、外編には、座談会における話を中心とした各事項別の記録を収録し、付編には、各種の表を載せている。

本編においては、期間を第1期から第5期に分ち、各期間ごとに、① 総説、② 工事の分布、③ 請負制度の状況、④ 業者のおもな団体とその活動、について詳述してある。第1期は、黎明期として、江戸中期から明治30年頃まで、第2期は、発展期として、日清戦争前後から明治末年まで、第3期は、躍進期として、大正初期から昭和10年頃まで、第4期は、満州・日華事変、太平洋戦争期、第5期は、復興期として、終戦から昭和25年頃までとしている。

外編は、古い資料の乏しいことを補う方法として、古老による座談会の記録を主体として編集されている。その内容は、① 昔の土木請負業の諸相、② 外地（台湾・朝鮮・満州）における土木建設工事と請負業、③ 土木建設工事における施工技術となっている。

* 名誉会員 工博 国土館大学教授 工学部土木工学科

また、付編としては、① 請負関係主要法令年表、② 統計およびその他の諸表、③ 年表、④ 参考文献目次、をのせている。

本書の編集にあたっては、土木建設業界のベテランが委員として15名、専門委員として29名、顧問として13名、幹事として5名が参加しており、また、座談会には、のべ105名が出席されている。

本編の有益なことはもちろんであるが、外編が、なかなか興味深い。請負師・土建屋などと呼ばれた個人的家業の時代から、会社企業としての建設業に成長するまでには、業界および業界人の苦悩と努力は大変なものがあり、人に嫌われるようなこともあったのであるが、ここでは、ことの善悪に関係なく、その真実を記さねばならぬという信念のもとに記されており、談合、監獄部屋、親分子分の盃、遭難事故その他に触れてある。また、外地における土木工事と請負業についても、貴重な資料が多い。

本書は、土木請負業の興味ある歴史を知るのみならず将来の発展を考究するうえにも、きわめて重大な意義を持つものであり、土木に関心を持つ人に対する貴重な文献である。

技報堂刊、B5判・1108ページ、定価15000円

ご案内とお願ひ

本欄に収録されております書評または新刊紹介は、わが国で発行された工学書を中心に書評小委員会がとりまとめて編集している欄であります。この編集作業のため、本欄を担当しております書評小委員会は、各方面の協力を得て、新刊書をもれなく集めるよう配慮と努力をしておりますが、未取図書が皆無とは申せない現状であります。つきましては、会員各位のご執筆・編集、もしくは関係されました図書が発刊になりました節は、ぜひとも書評小委員会あて2冊（ただし、うち1冊は土木図書館に備付け）ご恵送承りたく、お願い申し上げます。なお、勝手ながらご身辺でこの種出版物が出版されました節は、このことをご伝言いただきたく願ひ申し上げます。

土木学会誌編集委員会書評小委員会